

高齢者の外出支援を

高齢化率30%

猿渡（えんど）久子市議は、3月17日の市議会一般質問で、ワンコインバスなど高齢者の外出支援について質問しました。

「別府市の高齢化率は3割を超えた。ワンコインバスなど、以前から議論されてきたことで、我々も何年も前から求めてきた。検討ばかりではなく、早く何らかの外出支援を実施すべき」と求めました。

早く実現すべき

高齢者福祉課長は「高齢者の移動支援についてのニーズ調査を実施している。関係機関の協力で中山間地域での個別調査も行われている。この調査結果などをふまえ、調査研究を26年度の早い時期に行っていきたい。地域公共交通会議の設置も含めた中で、関係各課と協議し進めていきたい」と答弁。

えんど市議は「遅くとも27年度には実施できるようにしてもらいたい」と、重ねて早い時期の実施を求めました。

高齢者の健康づくり

さらに猿渡（えんど）久子市議は、「健康づくりや介護予防は非常に大事だ。高齢者の健康づくりのためには、出かける楽しみを持つことが大事では。各課の取り組みの中で、高齢者が参加してみようと思うような取り組みを工夫すべきでは」と、浜田市長に答弁を求めました。

浜田市長は、えんど市議がこの質問の前段で述べた年金引下げの影響について「市民の生活実態を真摯に受け止めた年金生活のみなさんがしっかり生活できるような状況を市長会で議論し、国に要請していきたい」と答弁。その上で「高齢者の健康づくりは全庁体制でやっつけなければならぬ問題だ。今後イベントも含めて考えていきたい」と答えました。



別府市議会HPで本会議の録画をご覧ください。日本共産党別府市議団やえんど久子のHPもご覧ください。

日本共産党 別府市議団
げんきニュース

発行責任者 平野文活
別府市石垣西8-2-31
TEL0977-22-6576

No.601
2014. 4. 30.

えんど久子市議 3月市議会一般質問で求める

医療費助成の充実を



子どもの貧困は深刻

猿渡（えんど）久子市議はこれまでも何度も求めてきた子どもや障がい者の医療費助成制度の充実について質問。

えんど市議は「子育て世代の貧困化がすすみ、就学援助を受けている小学生は18.5%、中学生は21.7%。生活保護と合わせると小6は23.5%、中2でも23.

5%。県下で中学卒業まで通院も助成している自治体は、日田市・佐伯市・豊後大野市・由布市・姫島村・九重町・玖珠町の7市町村。別府市でも中学生までの医療費無料化を」と求めました。
児童家庭課長は「助成枠の拡大は望ましいが、財政負担が大きく独自助成は難しい」と答弁。

厚労省に直接求める

「重度障害者医療費助成は立て替え払いが必要ない現物給付にすべきだ。現物給付にすると国庫負担金を減らされる。このペナルティはやめるべきだと、私は国会議員らと一緒に直接厚労省に求めてきた」とえんど市議。

福祉保健部長は「県や他市町村との協議が必要。国に対し減額措置の撤廃を引き続き県を通じ働きかけていきたい」と答弁。
日本共産党は今後とも国や県への働きかけを強め、がんばります。

湯山の山火事

すぐに現場へ



4月24日午後7時前に発生した山火事は消防や消防団、自衛隊など473名が出動。徹夜の消火活動により25日午前10時7分に鎮火。
日本共産党市議団の平野文活・えんど久子は、鎮火直後の25日午前10時半ごろ現場に行き、近隣の方から話を聞きました。近隣のみなさんにお見舞い申し上げます。